

国際広報メディア専攻

平成 20 年度
後 期

国際広報メディア専攻

日本語論述

13 : 30 ~ 15 : 30

解答上の注意

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題紙を開いてはならない。
- 2 問題紙は、この紙を含めて 3 枚ある。
- 3 解答用紙（25 字×40 行=1000 字）は、2 枚ある。
- 4 解答用紙は、2 枚とも必ず提出すること。
- 5 受験番号は、すべての解答用紙の指定された個所に必ず記入すること。
- 6 選択した問題番号は、すべての解答用紙の指定された個所に必ず記入すること。
- 7 解答は、すべて解答用紙の指定された欄に記入すること。
- 8 下書き用紙は別途配布されるが、問題紙の余白を下書きに使用してもさしつかえない。
- 9 問題紙および下書き用紙は持ち帰ること。

以下の問題 1 ~ 4 のうちから 1 題を選択し、1600 ~ 2000 字の日本語
(横書き) で解答しなさい。

【問題 1】

近年、マス・メディアで「やらせ」や「捏造」が行われていたという問題が数多く発覚し、社会問題化している。ジャーナリズムにおける「やらせ」や「捏造」の問題点について、問題の背景を含めて、具体的にあなたの考えるところを論じなさい。

【問題 2】

ミクシィに代表される SNS の利用者が急増しています。機能的な特徴として、日記やアルバムなどの情報をどのような範囲で公開するかを利用者が制限できることをあげることができます。さて、SNS のようなコミュニケーション・ツールにおいて匿名性の保証と公開の範囲の理想的関係はいかにあるべきか、一般的な掲示板やブログとの差異を指摘しながら、具体的に論じなさい。

【問題 3】

ここ数年、異文化との共生をうたうヨーロッパ諸地域での移民排斥が目だっている。下の文を読み、異文化共生について自由に論じなさい。

(内藤正典「オランダ、自由ゆえの不寛容 移民難民の疎外、顕在化
イスラム排除の矛先に」、朝日新聞夕刊、2006 年 6 月 5 日 から)

【問題 4】

近年の情報通信技術の高度発展に伴い、第二言語・外国語の学習では、インターネットなどを通じて目標言語地域外においても容易に生の目標言語に触れたりすることが可能となっている。このように、様々な情報流通の在り方の変化に伴い、第二言語・外国語を学習する、あるいは教える環境や手段も多様化し、メディア・リテラシーの重要性が指摘されている。

このような現状を踏まえた上で、第二言語・外国語の教育・学習におけるメディア・リテラシーの役割について、あなたの考えるところを論じなさい。